

第259回 番組審議会

1. 日 時 平成29年2月14日（火）12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 9名
出席委員数 8名（欠席委員数 1名）

○ 出席委員（敬称略）

鈴木 厚人（委員長）

—以下50音順—

石田 征広

加藤 裕一

久慈 浩介

菅原 正二

升田 久美子

八木橋 伸之

役重 真喜子

○ 会社側出席者（7名）

藤澤 利憲（代表取締役社長）

小原 忍（取締役副社長）

藤原 銀司（常務取締役）

前田 秀男（取締役技術局長）

工藤 浩（取締役東京支社長）

高嶋 昇（取締役営業編成局長）

工藤 哲人（報道制作部長主任）

○ 事務局 佐々木 久仁子

4. 議題 『FNN重大ニュース さよならジャパンOLD』
平成28年12月18日（日）16:00～17:55

5. 議事概要

今回は、昨年12月18日放送の「FNN重大ニュース さよならジャパンOLD」の中で、めんこいテレビが制作に携わった「崩れた気象の常識 北国を襲う熱帯の嵐」を中心に審議しました。概要は、以下の通りです。

●岩手めんこいテレビ報道制作部主任 工藤ディレクターからの説明

・この番組は、FNN28局が総力を上げて1年間取材してきた中で、重大ニュースに値するネタを取り上げたもの。めんこいテレビは、観測史上初めて太平洋側から上陸した台風10号の被害を中心に岩泉町の事例をベースに盛岡市が大雨の直撃を受けたらどうなるのか、CGシミュレーションを作って放送した。

・盛岡は、江戸時代から毎年のように洪水が起こっていた地域だが、たまたまカスリン・アイオン台風を最後に戦後大きな雨が降っていない。また、立派な堤防やダムが出来て大洪水も起こっていない。国土交通省岩手河川国道事務所から「治水が上手く行き過ぎて盛岡市民の防災意識が低くなってしまった。こうした企画は是非やってほしい」ということで協力してもらった。CGシミュレーションはとてもリアルで、市民に危機感を感じてもらえるものが出来た。また、盛岡市内の浸水危険エリアでインタビューを行い洪水への意識が低いこともわかった。岩手の防災意識をもう一度問い直すニュース企画をやっていけたらと思っている。

●出席した委員からの意見

・リアルなCGを見て、洪水が起こったら水没する、逃げることも出来ないと痛感した。

・時間が短い。もっと知りたいと思った。ぜひ検証番組を作ってほしい。

・シミュレーションが現実的で、4メートルの棒を持っているのもインパクトがあり分かりやすい内容で良かった。

・「2日間で313ミリ」と表記されたが、出典がわからず雨量に対する説得力がなかった。

・「想定外」というのは「あまい」ということ。どこにいても、いつかそういうことが起こるということを覚悟しないとまずい。防災意識は常に大事。番組はいろいろ考えているようなので大いにやった方がいい。

・CGシミュレーションがリアルでよかった。浸水するとデパートの地下にいる人が逃げることができるのか等を考えると大変なことになる。検証や危険性を30分、40分かけてじっくりやってほしい。

・この程度の水害であれば石油は2日持つとか、水が3日止まるとか、水をどこから持ってくるのか、堤防を高くすれば防げるのか等について産学協同で調査してみてはどうか。

・盛岡がこんなに危ないということを忘れていた。

・番組を通して見ると、おぼさんのギャギャや軽めの司会者、ちょっと売れている社会学者などが出てきて「何か違うな」と全体的な違和感が拭えなかった。

・国交省河川事務所のコメントがあったが、岩手県や盛岡市の考えも聞きたかった。

・映像の力、4メートルという高さを感じて、警鐘を鳴らすという点では非常に成功していた。一方で、なぜ周知になっていないのか不思議だった。ソフト対策を塗り替え塗り替えしてやっていかなければならないことにも触れた方がよかった。

・気象変動に関する正しい知識、情報を与えなければならない。

・地球の温度変化は、十四万年周期できれいに上がり下がりしている。さらに2千年周期でも上がり下がりがあり、今、ちょうど上がっている状態。だから、これからはこういうものが来る、常に注意しなければならないということを伝える必要がある。

・現代は、機能的だけれどもどうしようもない近代化となり、また伝統的な共同性を喪失した。今、地方創生というならアイデンティティの回復と協調性、「困った時は助け合う」昔の町内会のような共同性が大切になる。

・番組は、問題を提起しただけで終わっている。危機を煽るばかりではなく、岩手県、盛岡市、電力会社等の対策も紹介してほしい。

・番組コメンテーターの無責任な発言が気になった。報道のバラエティ化で親しみやすい人が出演しているのだろうが、コメンテーターは影響力があるということを感じ発言してほしい。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

※平成29年2月15日(水) 産経新聞 東北版

※平成29年2月25日(土) 午前4時12分から4時15分まで
「めんこいテレビ番審りレポート」として放送

※据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし

※次回は、平成29年3月14日(火)12時より 当会場にて開催予定です。